

## <特集1>分岐点にあるEU 解体の危機を乗り越えられるか？

著者	藤田 友尚
雑誌名	エコノフォーラム21 : 学生と教職員のインターコミュニケーション誌
号	24
ページ	2-2
発行年	2018-03-14
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00026835">http://hdl.handle.net/10236/00026835</a>

# 特集1

# 分岐点にあるEU 解体の危機を乗り越えられるか？

2017年、日本とEUは経済連携協定（EPA）の大枠合意に達しました。日本とEUのGDPを合わせると世界の約30%を占める地域での貿易協定であり、今後のわれわれの生活にも影響が及びます。EUは遠い地域ではなく、これまでよりずっと身近な存在になります。

統合へと結束することを目指して、さまざまな組織や制度を構築してきた超国家的統治体のEU。それが今、統合への束縛から距離をおこうとする加盟国が増えってきました。イギリスのEUからの離脱交渉が進行するなか、カタール・ニヤ自治州のスペインからの独立宣言、メルケル首相の求心力低下、オーストリアやフラ

ンスに見られる極右政党の勢力拡大など、EU加盟各国に新たな政治的局面が生まれ、内政と外交で先行き不透明な状況にあります。

EUはこれからどこに向かうのか。特集では、イギリス、ギリシャ、ドイツ、ポーランド、フランスの5カ国を取り上げ、それぞれの執筆者が自分の専門分野の知見を盛り込みながら各国固有の課題に新しい光を当てて考えます。特集の記事が、今後のEUの先行きを考える上でなんらかのヒントを提供してくれることでしょう。

（編集担当：藤田友尚）